

# ダンボールコンポストの作り方

ダンボール箱に基材(ピートモスと籾殻くん炭)を使って生ごみを入れて堆肥にするダンボールコンポストの作り方について紹介します

## 1. 用意するもの

○基材

・ピートモス、籾殻くん炭(土壌改良剤)

○ダンボール箱(容器)

・みかん箱などの厚めの箱を1箱  
(縦30cm×横45cm×30cm程度)

○箱の下に敷く下敷き用のダンボール(底の強度を上げる)

○通気性を良くするための下敷き

※ビールケースなどのコンテナケース台苗箱など

○こてやスコップ(ダンボール内をかき混ぜるため)

○ごむ手袋



## 2. コンポスト容器をつくる

①ダンボール箱(容器)の底から基材が出ないように隙間を ガムテープでふさぎます。

②箱の底に中から下敷き用のダンボールを1枚敷き、二重にします。

③基材のピートモス、くんたんをダンボール箱の中に入れます。

④通気性を良くするための苗箱などの下敷きを敷きます。

⑤古着やTシャツやバスタオル、新聞紙などを使って容器を覆います

ストッキング等  
でくる



## 3. 生ごみを投入する

コンポストの準備ができたなら、いよいよ生ゴミを投入します。

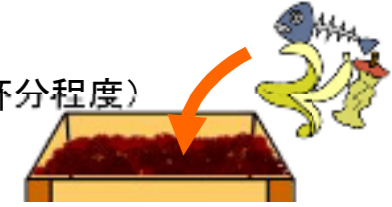
生ごみの入れ方

●1日あたりに投入できる目安の量は500～700gです。(三角コーナーで1杯分程度)

●生ごみは**細かく切って入れます**。(生ごみが分解しやすくなります)

●生ごみは**適度に水気を切ってから投入**します。

細かく切って入れた  
方が早く分解します



### ポイント

★基材がばさばさに乾燥した状態のときは、コップ1～2杯程度の水を入れる。

※微生物による生ごみの分解には水分が必要です。

基材がほんのりと温まっている状態を維持してください。

逆に水分が多すぎると、分解が遅れ、ダンボールを傷める原因となります。

適度な水分  
が必要です



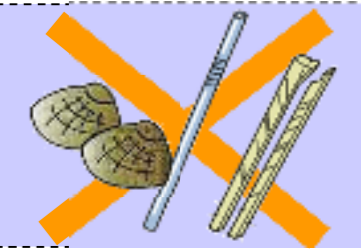
### 注意点

★入れてはいけないもの

割り箸や爪楊枝などの木製のものや、ビニール、プラスチック類、貝殻など。

★分解しにくいもの

鶏・豚などの骨。

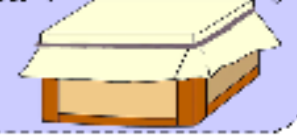


### 毎日の管理

生ごみを入れるたびに**よくかき混ぜ、空気をいれます**。ごみを分解する微生物の活動をよくするためです。かき混ぜ方は、投入した生ごみが見えなくなるくらいです。

これを毎回繰り返します。かきまぜたあとは、臭いや虫を防ぐために布やフタなどで投入口を覆います。

二週間ほど経つと、微生物の活動が活発になり、温度が上がってきます。



## 4. いつまで続けるか

1箱で約6ヶ月以上使用できます。生ごみの量にして約30～45kgを処理することができます。

箱が湿り気で膨らんできたり、分解に時間がかかるようになり、全体的に黒っぽくもっさりしてきたら生ごみの投入を止めてください。

## 5. 堆肥として使うには

生ごみの投入をやめ、1週間くらいは残った生ごみを分解させるために

毎日コップ1杯程度の水を入れてかき混ぜます。

その後はダンボールのまま、もしくは中身だけを土に埋めて、1～2ヶ月間ほど放置して



※堆肥として使わない時はダンボールを補強すれば一年以上使えます。

## 6. その他

ダンボールコンポストの資材(ピートモス・籾殻くん炭)をごみゼロなかつ21 (<http://gomizero.jimdo.com/>) やNPO等が行う講習を受けた市民に無料配布しています。

★購入できる場所★ フロンティアなかつ・ナフコ・グッティ

中津市清掃第一課 TEL 24-8527・24-5374